

喫煙している人にとって、がん予防に効果があるのは禁煙ですが、禁煙が難しいことは、喫煙している方も、そうでない方もご存じかと思えます。周囲から禁煙を勧められた人が個性を否定されたように感じて、衝動的な行動を取ることがありますが、それは、たばこに含まれるニコチンそのものに、喫煙をやめられなくなる依存性があるからです。そのため禁煙を判断しても、なかなか禁煙に成功できません。

禁煙に失敗し続けるのは根性がないからではなく、ニコチンによる依存症であることが、治療も医療として行うことができません。禁煙意欲のある方は、禁煙外来を設けていて、依存症から脱却する際の苦痛が少なくない治療を行っている医療機関を受診することも、選択肢の一つにするといでしょう。



禁煙に失敗し続けるのは根性がないからではなく、ニコチンによる依存症であることが、治療も医療として行うことができません。禁煙意欲のある方は、禁煙外来を設けていて、依存症から脱却する際の苦痛が少なくない治療を行っている医療機関を受診することも、選択肢の一つにするといでしょう。

文/国保多古中央病院 内科 宇都宮隆法

『禁煙は、がん予防の第一歩』



【病院便り】
多古中央病院の受付時間は、午前11時30分までとなっています。急患に限り時間外も受け付けていますが、設備と人員の関係上、適切な医療機関への紹介をさせていただく場合があります。近隣の医療機関を受診されている方で当院を受診する際には、お薬手帳など投薬内容が確認できるものを持参してください。

『子ども医療費助成受給券』の申請が始まります!



町では子育て支援の一環として、8月1日から小学校就学前までの乳幼児に加え、小学校1年生から中学校3年生までへの医療費助成を開始しました。

さらに12月1日からは、千葉県の医療費助成事業の改正に伴って「小学校1年生から小学校3年生まで」の子どもを対象に、申請により『子ども医療費助成受給券』を発行することになりました。

対象となる子どもを養育している世帯には、10月上旬に「子ども医療費助成登録申請書」を送付します。申請書の提出がない場合、受給券は発行されませんので、忘れずに申請してください。

■新たに受給券が発行される子ども

小学校1年生から小学校3年生まで

※小学校4年生から中学校3年生までは、従来どおり子育て支援課窓口での申請(口座振込による助成)となります。

■申請方法

11月15日(月)までに、子育て支援課の窓口で申請してください。

※事情により窓口へお越しになれない場合は、郵送での申請も可能です。

詳細については、お問い合わせください。

(12月1日から受給券が利用できるよう、期限内の申請をお願いします。)
申請が遅れると、11月中に受給券が届かない場合があります。

【申請の際に必要なもの】

- ①子ども医療費助成登録申請書 ②子どもの健康保険証 ③印鑑 ④保護者名義の預金通帳(ゆうちょ銀行を除く)

お問い合わせ●子育て支援課子ども係 ☎ 76-5412

追跡レポート! ———— この職業・この人たちの24時間



「ありがとう」の気持ちを込めて たこ焼き屋さんの一日

紹介者：高山昌子さん(坂)

何か仕事を始めたいと考えていたときに、妹夫婦が『たこ焼き屋』を営んでいたことがきっかけで、この仕事を始めることになりました。右も左も分からず妹夫婦に手ほどきをしてもらいながら始めた仕事も、今年で24年になります。

店は朝9時30分から夕方6時まで、スーパーミヤスズの一角にテナントとして開店しています。仕込みは朝7時から始め、1時間かけて商品の原料となる「粉とき」を作ります。「粉とき」は作ってから冷蔵庫で1時間寝かせます。その間は、店の掃除や開店準備に追われ、あっという間に時間が過ぎます。閉店後は自宅に帰って翌日の準備。野菜やタコを切ったり、炊事の合間をぬって仕込みをします。

現在扱っている商品は、たこ焼きと大判焼きです。味と

値段は24年前の開店当時から全く変えていません。この味を思い出して来てくれる方もいるので、とてもありがたく思います。



国道296号沿いにあるので、仕事帰りに立ち寄ってくれるお客様もたくさんいます。「お母さん、おいしかったよ。また来るね」と声を掛けてもらったときは、この仕事を続けてきてよかったなと思います。

「常に真心を込めて、明るく元気に」を心掛け、お客様には感謝の気持ちを忘れないこと。24年間続けてこられたのも、お客様のおかげです。

また、いろいろな方と出会うことで自分に元気をもらいます。話をすることによって励まされ、力になります。小さいお子さんから年配の方まで、皆さんには「明日も頑張ろう」という気持ちをいただきます。これからも、お客様に喜んでいただけるよう頑張っていきたいと思います。



取材協力：高山商店

俳句

千の風歌うあの空星月夜

肩の荷をおろせし肩に赤とんぼ

鬼やんま流れのゆるき水紙めて

いつの間に長寿を迎え盆の月

凌霄花散らして人の住まぬ家

一瞬は永くもありて揚花火

さりげなく肩を離れし秋茜

短歌

薬飲む程にあらねど微恙もつ身を抱へつつ元氣よそほふ

真夏日を染しむように園に咲く松葉牡丹は光を散らす

陰干しのスーツケースの皮匂う旅の予約を今日済ませたり

日陰にて盆に供へる菰を編むあの世の夫に語りかけつつ

賑やかな祇園ばやしを遠く聴き乾ける畑に小豆種蒔く

向う岸のひくき町並み明るくし上がる花火の音はこだます

遠花火ドドンと聞ゆふるさとの夏の祭りのはせて広がる

高根 柳下 和子
南玉造 越川 節子
染井 佐藤 登久
高野前 鈴木沙和子
南並木 飯田ふみ子
十余三 鈴木 照子
次 浦 高橋 啓枝

高根 平山富士子
次 浦 高橋 耕造
切 通 勝又 窓秋
南 中 飯田久よし
仲 町 香取 省吾
北 中 木内 慶子
水 戸 鈴木やすし